

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-35207

(43)公開日 平成5年(1993)5月14日

(51)Int.Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 2 7 D 5/00

7110-2B

B 2 7 K 3/34

A 9123-2B

審査請求 未請求 請求項の数1(全 2 頁)

(21)出願番号

実願平3-91557

(22)出願日

平成3年(1991)10月11日

(71)出願人 390030339

本多 富泰

静岡県富士市水戸島2丁目8-3

(72)考案者 本多 富泰

静岡県富士市水戸島2丁目8-3

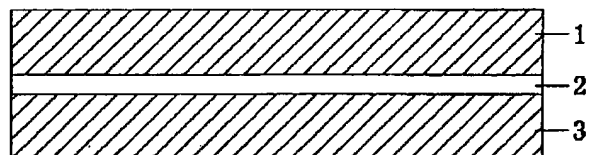
(74)代理人 弁理士 ▲桑▼原 史生 (外1名)

(54)【考案の名称】 化粧単板

(57)【要約】

【目的】 木質感に優れ、防虫や殺菌等の機能をも発揮し得る化粧単板を提供する。

【構成】 木材を切削して得られる単板に、接着剤を介して、フィトンチッドを含浸せしめた裏打ち材が貼着されてなる化粧単板。単板と同一樹種のフィトンチッドを含浸させることにより単板樹種の木質感を強調し、単板と異なる樹種のフィトンチッドを含浸させることにより単板樹種よりも高級な木質感を疑似表現することができる。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 木材を切削して得られる単板の裏面に、接着剤を介して、フィトンチッドを含浸せしめた裏打ち材が貼着されてなることを特徴とする化粧単板。

【図面の簡単な説明】

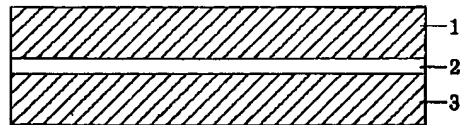
【図1】 本考案の一実施例による化粧単板の構成を示す

断面図である。

【符号の説明】

- 1 単板
- 2 接着剤層
- 3 フィトンチッドを含浸せしめた裏打ち材

【図1】



・ **【考案の詳細な説明】**

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、木材を切削して得られる単板に裏打ち材が貼着されてなる化粧単板に関し、特に芳香、防虫、防菌等の作用を発揮する化粧単板に関する。

【0002】

【従来の技術】

木材を切削して得られる単板を合板や繊維板等の板状ないし棒状基板の表面に化粧貼りするための化粧単板として用いることは公知であり、化粧単板の破損防止のためにその裏面に和紙や不織布等のシート状裏打ち材を貼着したものも提供されている。化粧単板はその木目を意匠とするものであり、単板状態であるいは基板の表面に貼着した後、透明塗装処理が施される。

【0003】

【考案が解決しようとする課題】

化粧単板は一般に0.2～2mm程度の厚さで供給され、樹木からの切削後において脱脂、軟化を目的とする煮沸、蒸煮処理が行われるため、この処理によって単板の樹種特有の芳香機能が大幅に減殺若しくは消失してしまう。特に近年は銘木と呼ばれる高級樹種材が減少して高価なものになってきているため、従来は化粧単板として用いられなかったような低級材や未利用樹材の中から木目や木肌、色調が高級樹種材に疑似したものを選択して化粧単板として利用することが行われているが、このような化粧単板から芳香機能が失われると、益々高級感に乏しいものになってしまう。

【0004】

【課題を解決するための手段】

そこで本考案は、上記従来技術の欠点を解消し、低級材であっても高級感を表現することのできる化粧単板を提供することを目的とする。

【0005】

この目的を達成するため、本考案による化粧単板は、木材を切削して得られる単板の裏面に、フィトンチッドを含浸せしめた裏打ち材が貼着されてなることを

・特徴とする。

【0006】

本考案による化粧単板は以下のようにして得られる。まず、スギ、ヒノキ、ヒバ、マツ、シラカバ、マキ、ネズコ、クスノキ、クヌギ、イチョウ、ツバキ、スプルー、ラワン、カポール、クリ、ポプラ、ヤナギ、アガチス、ケヤキ、オーク、セン、チーク、ナラ等の針葉樹材或は広葉樹材を、スライサー、ハーフロータリーレース、ロータリーレース等の切削装置を用いて任意厚さに切削して単板を得る。

【0007】

このようにして得られた単板を必要に応じて乾燥して所定含水率に調整した後、単板の裏面に接着剤を介して裏打ち材を貼着する。この際に用いられる接着剤としては、尿素樹脂、フェノール樹脂、メラミン樹脂、エポキシ樹脂、酢酸ビニル樹脂、エチレン-酢酸ビニル樹脂、或いはそれらの変性樹脂接着剤、イソシアネート系接着剤、合成ゴム系接着剤等の熱硬化性、熱可塑性接着剤が任意選択されて用いられる。裏打ち材としては、従来用いられている和紙、薄葉紙、クラフト紙、不織布、合成繊維紙、化学繊維紙、それらに合成樹脂を含浸した含浸紙等から任意選択されて用いられる。

【0008】

本考案においては、単板の裏面に接着剤を介して貼着される裏打ち材として、予めフィトンチッドを塗布含浸したものをを用い、或いは単板の裏面に貼着された裏打ち材に対してその裏面側からフィトンチッドを塗布含浸する。フィトンチッドの塗布含浸は任意の手法によって行われ、例えば、ロールコーターやリバースロールコーター、スプレッダー等の塗布装置を用いて塗布含浸され、含浸装置を用いて加圧又は減圧下において含浸処理され、またディッピングによって浸漬処理しても良い。

【0009】

フィトンチッドとは、天然木（幹、枝、葉、根株、木皮、樹脂等）を蒸留、圧搾、溶媒抽出等により精製して得られる精油であって、具体的には、 α -ピネン、 β -ピネン、ジペンテル、リモネン、テルピノレン等のモノテルペン、カジネ

ン、ロシギホレン等のセスキテルペン、カンホレン、ミレン等のジテルペン等のテルペン＝ $(C_{15}H_{25})_n$ を主成分とするものであって、一般にはテレピン油と呼称されている。

【0010】

フィトンチッドは、精油状態（溶媒希釈する場合もある）のまま、又はエマルジョンタイプとして、或は精油を内部に封入したマイクロカプセルタイプのものを水、合成樹脂等に分散した状態で用いられる。精油状態で使用されるフィトンチッドは大気中への放散が比較的に早いので速効性であって短期効果が大きく、またエマルジョンタイプやマイクロカプセルタイプとして使用される場合は遅効性・持続性であって長期効果が期待できる。更に、エマルジョンタイプやマイクロカプセルタイプの場合には、エマルジョン外皮又はマイクロカプセル外殻を構成する物質や外皮・外殻の厚さを変えることにより、フィトンチッドの放散量を適宜コントロールすることができる。

【0011】

フィトンチッドの樹種は、スギ、ヒノキ、ヒバ、マツ、シラカバ、マキ、ネズコ、クスノキ、クスギ、イチョウ、ツバキ、トガサワラ等任意のものであって良く、場合によっては他の植物より得られるフィトンチッドを用いることもできる。フィトンチッドは、その樹種によって多少異なるものの、殺菌、殺ダニ、殺虫、殺総虫、抗微生物、抗菌、薬理、脱臭、芳香、鎮静等の多くの機能を持つ。例えばスギのフィトンチッドは特に殺菌、殺ダニ、脱臭機能に優れ、ヒバのフィトンチッドは特に抗微生物、殺菌機能に優れ、ヒノキのフィトンチッドは特に抗菌、脱臭機能に優れ、トガサワラのフィトンチッドは特に殺虫、殺菌、殺総虫機能に優れ、シラカバのフィトンチッドは特に抗菌、殺虫機能に優れている。またフィトンチッドは人体に対する森林浴効果を発揮し、環境衛生及び健康上の効果も優れている。

【0012】

本考案において、裏打ち材に塗布含浸されるフィトンチッドは、用いられる単板と同じ樹種材より得られるものであっても良く、この場合には単板の樹種が強調的に表現される。また、単板とは異なる樹種材より得られる一種又は複数種の

ものであっても良く、この場合には単板の樹種を異なる樹種、特により高級な樹種に疑似させる作用効果を発揮する。更には同一樹種材より得られるものと異なる樹種材より得られるものとを混合して用いて、これらの作用効果を複合させることもできる。

【0013】

また、複数樹種のフィトンチッドを混合して裏打ち材に塗布含浸すれば、それぞれのフィトンチッドの有する機能を兼ね備えた化粧単板とすることができる。例えば、ヒバのフィトンチッドとスギのフィトンチッドとを混合して用いると、ヒバのフィトンチッドによる抗微生物、殺虫機能と、スギのフィトンチッドによる殺菌、殺ダニ、脱臭機能とがそれぞれ発揮される。このようにして複数樹種のフィトンチッドを任意に組み合わせて用いることにより、所望の機能を兼ね備えた化粧単板を得ることができる。

【0014】

【実施例】

図1は本考案の化粧単板の構成を示し、単板1の裏面に接着剤層2を介してフィトンチッドを含浸せしめた裏打ち材3が貼着されてなるものである。

【0015】

【考案の効果】

裏打ち材に塗布含浸されたフィトンチッドが接着剤層及び薄い表面単板を介して徐々に大気中に放散され、その機能が長期間にわたって持続的に発揮される。本考案の化粧単板においては所望樹種のフィトンチッドからの芳香が得られるので、単板と同樹種のフィトンチッドを用いることによって当該単板樹種の木質感を強調し、或いは低級材の単板を用いた場合にはより高級な樹種のフィトンチッドを用いることによってより高級な木質感を疑似表現することができる。更に、用いられるフィトンチッドの有する殺菌、殺虫、脱臭等の特有の効果を発揮させることができ、ダニやカビ、細菌の発生繁殖を防止し、ゴキブリ等の害虫の忌避効果を発揮し、人体に対する森林浴効果を果たし、環境衛生や健康上に有益である。